



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	自治体主導の地域日本語教室ができるまで：北海道恵庭市における実践報告
Author(s)	式部, 絢子; SHIKIBU, Ayako
Citation	日本語・国際教育研究紀要, 26, 17-24
Issue Date	2023-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/89087
Type	departmental bulletin paper
File Information	26_p17.pdf



自治体主導の地域日本語教室ができるまで

－北海道恵庭市における実践報告－

式 部 絢 子

要 旨

本稿の目的は、北海道恵庭市が文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教室空白地域解消推進事業地域日本語教育スタートアッププログラム」を活用した地域日本語教室を開始するまでの過程と、筆者がコーディネーターとして関わった2022年5月から12月までの活動を報告することである。

恵庭市は技能実習生を含む外国人住民の急増及び多国籍化を受け、従来の国際化推進に加え、多文化共生の町づくりを目的とし、2018年に国際化推進アクションプラン（以下、プラン）を策定した。プランは、地域における外国人住民との交流促進が重視されている。その実現のため、日本語教室を設置する運びとなり、約2年の準備期間を経て、2022年5月から「日本語ひろば えにわ」が始まった。同年12月までの成果は、教室の定期開催が続けられていること、新たな活動の提案や運営に参加する外国人住民が出てきたことに加え、これに触発され、日本人サポーターも活動に対して意見を述べる機会が増えてきたことである。一方で、運営の中心を担ってきた市職員の関わり方の変化や、それに伴う運営体制の見直しなど、今後のひろばを継続する運営側の課題も見えてきた。

〔キーワード〕 多文化共生、地域日本語教育、体制整備、自治体

1. はじめに

恵庭市は新千歳空港と札幌市の中間地点に位置し、食品製造工場をはじめとした大規模製造工場が多く立地する、人や物の移動が多い地域である。その他「エコロジーガーデン えこりん村」や自治体施設「花の拠点 はなふる」などの観光施設があり、ガーデンシティを謳ったまちづくりが特徴である。

恵庭市によると、2022年10月現在の人口は、70,312人で、そのうち在住外国人数は562名である¹⁾。2015年までは230名程度で推移していたが、技能実習生を中心に2019年までに倍増した。国籍も2015年以前は、中国、韓国・朝鮮が半分以上を占めていたが、近年は、フィリピン、ベトナム等、アジアを中心に多国籍化している。2022年6月の在留資格別人数では技能実習が180名と特定技能84名で、両者を合わせると、恵庭市在住外国人の半数近くになる。

2. 恵庭市による日本語教室設置の経緯

技能実習生を含む外国人住民の急増及び多国籍化を受けて、恵庭市は従来の国際化推進に加え、多文化共生の町づくりを目的とし、2018年に国際化推進アクションプラン（以下、プラン）を策定した。プランでは、多文化共生の町づくりにおいて、地域における外国人住民との交流促進が重視されている。その実現のため、外国人住民に学習交流する機会及び、日本の生活習慣、文化を学ぶ機会を設置することが提案された。具体的には、日本人向けの多文化共生研修会の実施や外国人住民向けの日本語学習の機会をつくることが謳われている。

この実施にあたり、恵庭市は、2019年に北海道経済部による「令和元年度 外国人材地域サポート促進事業（モデル地域支援）」を活用した。この促進事業を委託されたキャリアバンク株式会社²⁾が恵庭市内で外国人住民や受け入れ企業を対象とした調査を行った。同社は調査結果に基づき、恵庭市に、外国人住民が日本語学習のニーズを持っていること、自国のことを知ってほしいと思っていることを明らかにし、その対応策として日本語教室の設置を提案した。さらに同社は、その設置において、文化庁「「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業地域日本語教育スタートアッププログラム」（以下、スタートアップ）を利用することを促した。スタートアップとは、文化庁が「生活者としての外国人」を対象にした教室が設置されていない地方公共団体に対して、地域日本語教育の専門家アドバイザーとして派遣し、日本語教室の設置に向けた支援を行うものである。採択された自治体は原則3年間、教室設置等に係る補助金および地域日本語教育の専門家による助言等の支援が受けられる。スタートアップ終了後には、自治体や市民を中心とした教室の継続が期待されている。キャリアバンクの提案を受け、恵庭市は、2019年にスタート

アップに申請し、採択され、2020年度よりスタートアッププログラムの支援を受けた教室設置準備が開始された。

3. 教室開設に向けた動きと課題

スタートアップ1年目（2020年）は、アドバイザーによる助言を受け、外部講師による「日本語ボランティア入門講座」を開き、ボランティア人材の発掘を行うとともに、教室活動やプログラム等を考えるコーディネーターの選定を行った。

2年目（2021年）は、日本語学習支援を行うボランティア人材を増やすため、「ボランティア養成講座」を3回、「ボランティアセミナー」を1回実施し、延べ68名が参加した。恵庭市の主導により、この講座参加者らが中心となって、日本語学習支援ボランティア団体「えにわ外国人サポートクラブ」が立ち上げられた。市内でこの団体についての理解を促進するため、恵庭市は、企業との対話や広報誌を通じた市民への広報を行った。しかし、この時期はコロナ禍にあり、教室実施前に行うべき、外国人住民との対面での交流イベント等の企画、実施が難しかった。さらに、コロナ禍により、道外のアドバイザーの来道が難しく、市内のコーディネーターも、本業の都合により、十分に活動に関わることができなかった。その結果、1年目・2年目は、教室開設の具体的な動きを起こすことはできなかった。

1・2年目で教室設置に至らなかったことから、より恵庭市の活動に関わることができる者として、道内で日本語教育に従事している筆者が、新たにコーディネーターとして選定された。これにより、地域アドバイザー、恵庭市で伴走できるコーディネーター、そして恵庭市職員から構成される現在の日本語教室設置に向けた実働的な体制が作られた。

4. 「日本語ひろば えにわ」活動概要

この体制のもと、コロナの収束、及び、日本語教育の専門家であるコーディネーターの活動の方向付けにより、日本語を通した日本人住民と外国人住民の交流の場として、2022年5月から「日本語ひろば えにわ」（以下、ひろば）が始まった。主な会場となる市民活動センター「えにあす」はJR恵庭駅から徒歩10分ほどの場所にあり、駐車場も広くアクセスは良い。「えにわ外国人サポートクラブ」のメンバー（以下サポーター）は、

以下はひろばの基本的な情報である。

- 日本語ひろば「えにわ」**

Free Japanese Conversation and Intercultural Exchange Salon in Eniwa

12月6日（火曜日）
PM 6 : 00 - PM 7 : 30
「えにあす」の2階 会議室1-8-2

12月17日（土曜日）
PM 1 : 30 - PM 2 : 30
「えにあす」の1階 「会議室2」

Google Map

えにあす

えにわ外国人 サポート

えにわ外国人サポートクラブ
Eniwa Foreigner Support Club

ひろばは日本人住民と外国人住民との対話を通じた交流を基本とするが、その進め方は曜日により異なる。まず、火曜日は、筆者が『私らしく暮らすための日本語ワークブック』『日本語おしゃべりのたね』を参考に、トピックを選定し、日本人住民と外国人住民をグループに分け、1時間程度対話をしてもらう。各グループのメンバーには、対話の途中で内容を随時全体に共有してもらい、さらに最後に感想を含めて、今日話した内容をまとめて発表してもらう。この間、筆者はファシリテーターとして、話し合い内容の共有を促す、話し合いを促進するなどの役割を担う。土曜日は、筆者のやり方を参考として、サポーターがファシリテーターとして主体的

に活動を運営する。このように曜日により活動の主体を分けた狙いは、教室の自走化に向け、サポーターの自立を促すことであった。しかし、ファシリテーター役に手をあげるサポーターは少なく、そもそも土曜日の活動に参加できないサポーターも多いことから、結局、市職員がファシリテーターを務めることが多かった。



写真 活動の様子（「えにわ外国人サポートクラブ」Facebookより）

5. ひろばの成果と今後に向けた課題

以上のかたちで、ひろばは2022年5月から12月まで継続的に実施されている。その成果は、まず何よりも、この8か月間、月2回のひろばが休みなく、継続できていることである。平均出席者数は、外国人住民7名、サポーター9名である。サポーターからは外国人住民の参加者数が増えて欲しいとの声もあるが、全く集まらなかった回はない。その背景には市職員による積極的な広報活動やこれまでの参加者への定期的な連絡がある。このように、継続的な開催においては、活動当日に参加するメンバーだけではなく、運営に関わるメンバーの役割も重要である。

もう一つの成果は、新たな活動の提案や運営に参加する外国人住民が出てきたことである。これに触発されて、日本人サポーターも活動内容や実施方法に対して意見を述べる機会が増えてきた。このことは、日本人住民・外国人住民に関係なく、参加者全員が、ひろばを作るメンバーとして関わる意識が生まれたことを示していると思われる。

一方で、スタートアップ終了後のひろばの継続に向けた課題も見えてき

た。2023年3月で恵庭市のスタートアップは終わりを迎え、今後は、恵庭市及び「えにわ外国人サポートクラブ」が、自立して活動が続けていかなければならない。ひろばの活動は参加者の意識の高まりもあり、軌道に乗りつつあるが、先述の通り、活動当日に参加するメンバーだけではなく、運営に関わるメンバーの役割も重要である。これまでは市職員がその役割を担ってきた。教室活動が今の姿になるまでには、市職員の存在が大きかった。運営に関わる事務的な作業のみならず、サポーターがファシリテーターを行う際には、共にファシリテーターを務めるといった活動のフォローも担ってきた。しかし、同職員は任期付きの職員であり、今後は他業務を主とする他の市職員が兼業としてひろばの運営を担当する予定である。そのため、恵庭市は、これまで市職員が担当していた業務の一部をボランティア参加者であるサポーターが行うことを求めている。しかし、サポーターの中には、活動運営の中心になることについて消極的な意見もある。活動の中心的役割を担うことで、サポーターが、ひろばを「自分たちの団体」と捉え、当事者意識が高まることが期待されるが、一方でその業務を負担に感じ、ひろばの活動自体から足が遠のいてしまう恐れがある。さらに、スタートアップ終了後、恵庭市が、コーディネーターにこれまでと同じ業務を依頼し続けるかは、現段階では不透明である。

このように、スタートアップ体制の終了後、これまでの活動を維持、発展させていくための旗振り役をだれが担っていくのかという課題が見えてきた。

筆者は、この旗振り役を自治体職員が担うべきだと考えている。なぜなら、ひろばの活動を評価、調整し、継続させていくためには、その発端となった恵庭市の国際化推進アクションプランと照らし合わせて行っていくことが必要だからである。

もちろん、これまで、ひろばはサポーターや外国人住民、町内会や受入れ企業等で構成される協議会の協力のもと作られてきた。国際化推進プランの実行においては、自治体は、単独ではなく、各種市民団体や受入れ企業、住民と協働して進めていくべきであるが、自治体の施策に則った上で活動が続けていくには、あくまで自治体自身がその旗振り役となることが望まれる。

謝辞：

この報告をまとめるにあたり、恵庭市企画課の方々に多くの協力をいただきました。ありがとうございました。

注：

- 1) 本実践に関わる恵庭市職員に質問書を送り、事実確認を行った。(2022年12月19日確認)
- 2) 札幌市に本社を置く求人、転職、人材派遣サービス企業。

参考資料：

恵庭市企画振興部企画課 (2018) 「恵庭市国際化推進アクションプラン」

<https://www.city.eniwa.hokkaido.jp/material/files/group/12/eniwaactionplan.pdf> (2022年12月3日検索)

恵庭市 (2020) 「「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地機解消推進事業地域日本語教育スタートアッププログラム」報告書

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_startup_program/1416438.html (2022年12月3日検索)

恵庭市 (2021) 「「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地機解消推進事業地域日本語教育スタートアッププログラム」報告書

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_startup_program/93761901.html (2022年12月3日検索)

出入国在留管理庁 (2022) 「在留外国人統計 (2022年6月末)」

https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_touroku.html (2023年2月4日検索)

文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha_startup_program/index.html (2023年2月4日検索)

付録 「日本語ひろば えにわ」の活動

回数	実施日	話のトピック／活動	参加者数	
			サポーター	在住外国人
0	4／23(火)	模擬クラス（サポーターのみ） 1回目の模擬を行う	13	－
1	5／17(火)	食べ物	13	10
★	6／12(土)	第39回全国都市緑化北海道フェア「ガーデンフェスタ北海道2022」開催準備に伴う市民花壇の花植え	8	27
2	6／21(火)	日用品・薬を買う	14	4
3	7／5(火)	祭りの思い出	13	7
4	7／16(土)	食べ物	7	1
5	8／2(火)	恵庭町歩きの準備	8	6
6	8／20(土)	恵庭町歩き ➡悪天候のため中止。室内でことば探しゲーム	7	2
7	9／6(火)	防災	13	10
8	9／17(土)	ご近所・町内会って？ ※アドバイザー2名見学	11	9
9	10／4(火)	名前	7	4
10	10／15(土)	恵庭の紅葉名所をFacebookで発信	6	1
★	10／22(土)	えにわハッピーハロウィン2022 開催準備に伴うかぼちゃランタン作り（恵庭市青年会議所主催）	6	8
	10／26(水)		4	8
11	11／1(火)	ハロウィン・死者・先祖のための祭り	7	7
12	11／19(土)	マレーシア料理作り	11	1
13	12／6(火)	ジェスチャー	10	4

★マークは日本語教室とは別に特別な行事として実施したものである。

しきぶ あやこ

（北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部非常勤講師）